

○授業において大事にしたいこと

・子どもが安心して、進んで取り組める授業～学習の土台づくり～

学年：小学校全学年

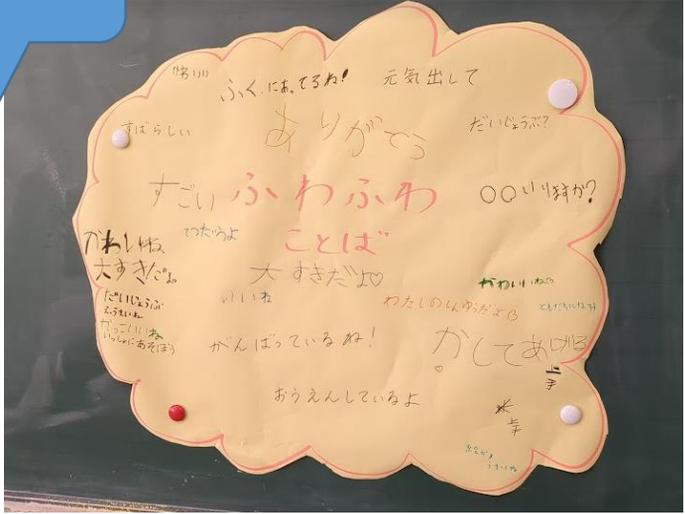
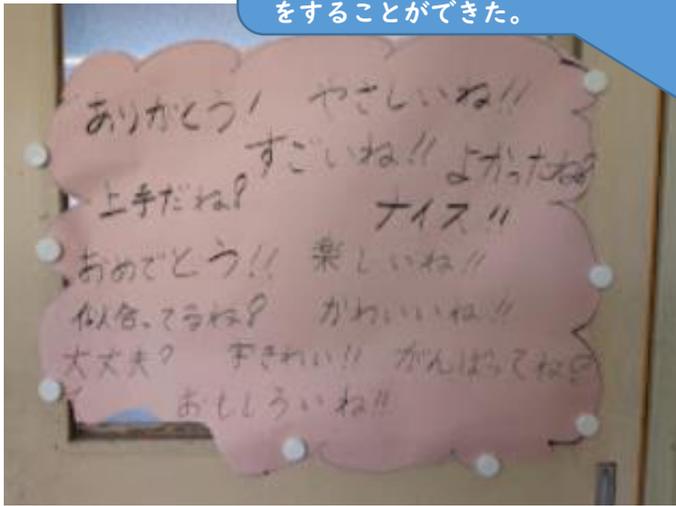
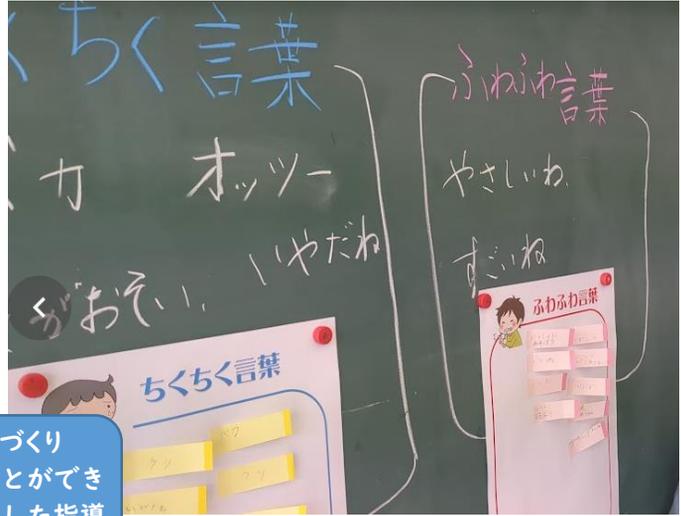
教科：道徳・特別活動・教育活動全体

①望ましい人間関係の構築～道徳「ふわふわ言葉・ちくちく言葉の授業」～

学級内に支持的風土をつくるために、道徳などの学習を活用して、4月～5月に多くの学級で「ふわふわ言葉」の授業を実践している。この授業では、人を傷つける言葉についての影響を考える授業であり、春にこの授業を行うことで、子どもたちに安心感を与えることができる。

言葉の指導は日常授業内の基礎基本になると考え、本校では大切な指導として扱っている。

○子どもたちがいつでも確認できる学級づくり
・学習したことをいつでも振り返ることができるよう教室に掲示したことで、継続した指導をすることができた。



②学習・生活ルール～○○○小そろえる活動～

子どもたちが安全・安心な学校生活を過ごすことができるよう、校内で学習ルールや生活ルールをそろえ、全校で取り組んでいる。今年度は、特に校内生活の中で課題となっている事項を「○小あいことば」として設定し、教師も児童も共通認識をもちながら生活をしている。

●小あいことば
あいさつは自分から
いつもろうか右がわを
ことばづかいはいていねいに
ときは金なりチャイム前
ばめんに合わせてりつようを

○安全・安心を確保するルールづくり
・全職員で校内における課題を共有しルールを作成したことで、教員も子どもも同じ意識で学校生活を送ることができた。

- 小そろえる活動 学習10か条
- ①チャイム前着席
○チャイム前に授業の準備を済ませ、着席してまつ。
 - ②授業のあいさつは4秒礼
 - ③大切な話を聞く時は立腰
 - ④呼ばれたらはっきり返事
 - ⑤相手を意識した言葉遣い
○授業中にあてられた時や、全体の場では「です、ます」。
○相手をききすぎない言葉を使う。
 - ⑥課題は「青」、まとめは「赤」で
定規を使い囲む。
 - ⑦筆箱の中
○鉛筆5～6本(かざりのないもの) ○消しゴム(白か黒)
○定規(どうめいで15cmくらい、折りたたみ×)
○赤青鉛筆(ペン) ○マーカー1本 ○水性フェルトペン
※ペンやマーカーは1年生は使わない。
 - ⑧机の上に出すもの
○教科書(左) ○ノート(右)
○鉛筆、消しゴム ○赤青鉛筆(ペン可) ○定規(上)
☆授業中に手いじりをしない。
☆筆箱は机の中にする。
 - ⑨家庭学習や家庭での読書を習かんづける。
○「学年×10分間」以上 読書：10分間以上
 - ⑩ノート
○新しいページを使う。日付・ページを書く。
○ノートを忘れた場合は、先生に伝えノートのコピーをもらい、後でりてはる。

③基礎的・基本的な知識及び技能の構築

学習の進め方 ～授業で大切にすること～

☆岩内町では、4つの小中学校の全ての教職員が「授業で大切にすること」を共有し、日々の授業づくりに生かされています。

「課題をとらえる」

□今日は何を学習するのかを明確にして、学習への見通しを持ちます。



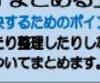
「自分で考える」

□これまで習ったことを思い出しながら、まずはじっくりと自分で考えます。



「気づく・考えを深める」

□対話的な学びを通して気付いたり、考えを深めたりします。
(例) ペアや小集団、全体交流など



「まとめる」

□課題を解決するためのポイントについて話し合ったり整理したりしながら、今日の学習についてまとめます。



「ふり返る」

□今日の学習で考えたことやわかったことを自分の言葉で表現します。
□理解の定着を図るため、練習問題などに取り組みます。
□今後の学習への見直しを持ち、次の時間に向けて意欲をつなげます。

保護者の皆様へ

教育研究所では、昨年度の「学習規律」に引き続き、町内4校で共通した「学習過程～学習の進め方～」の検討を重ねて参りました。授業のねらいや教材の特性を考慮しながら、「どの学校でも」「どの教科でも」これらの5つの要素を取り入れて授業を展開していくことで、町内4校で揃った学習環境づくりを目指します。

町内で、1単位時間の学習の進め方を統一している。「課題をとらえる」では、本時の課題を自分事としてとらえることからスタートし、最後の「ふり返る」では、本時でわかったことや考えたことを自分の言葉で表現をする。ふり返ることで、次時の学習に主体的に取り組むことができている。また、下記のような板書型指導案を作成し、本時の目標や課題、まとめを明確にさせてから授業を行うことで、子ども達の知識や技能の定着を目指している。

5年

本時の目標 時間や道のりの単位が異なる場合に単位をそろえて計算できるようにする。

10月30日 P151

1. 課題をとらえる

① 4分間で720m
② 50秒間×850m
どちらが速い?

2. 自分で考える

① 720÷4=180
② 50×850=42500
7×60=420
③ 分速180m
④ 分速425m

3. 気づく・考えを深める

⑤ 30×50=1500
⑥ 720÷4=180
⑦ 720÷4=180
⑧ 180×4=720
⑨ 180×3=540
⑩ 180×3=540

⑪ 分速180m
⑫ 分速425m
⑬ 答えエバクターの方が速い

⑭ 単位をそろえてかくべき

B評価 時速 分速 秒速の単位の関係を理解し、異なる時間の単位で表される場合に単位をそろえて計算できるようにする。 A評価 B評価の理解にノズルで移動の時速、時速から秒速への変換について理解し説明できる。

④教師や児童のICTのスキルの構築

教職員においては、右のように学力向上係からICT通信を発行し、授業でICTをどのように活用すればよいかというアイデアや実際に授業内での活用の様子を共有している。また、児童においては、授業内で学習の道具のように使えるように、電卓機能はもちろん、自分の考えを記すことや調べ学習の際にも活用をしている。また全校でタイピング練習にも取り組んでいる。

○授業のスタンダードを全教職員で共有
・授業の進め方を決めたことで、見直しをもった授業づくりを行うことができ、子どもたちの安心感につながった。

いつでもいいから 小学校 学力向上係 研修通信 (ICT活用) No.25 令和5年10月18日(水)

ちよこっとtry!

ICTの学びへの活用例

学びへの活用 ICTの「学び」への活用

“すぐにも” “どの教科でも” “誰でも”使えるICT

① 検索サイトを活用した調べ学習

- 一人一人が情報を検索し、収集・整理
- 子供たち自身が様々な情報にアクセスし、主体的に情報を選択する

② 文章作成ソフト、プレゼンソフトの利用

- 子供たち一人一人が考えをまとめて発表
- 共同編集で、リアルタイムで考えを共有しながら学習

③ 一斉学習の場面で活用

- 誰もがイメージしやすい教材提示
- 一人一人の反応や考えを即時に把握しながら双方向的に授業を進める

④ 一人一人の学習状況に応じた個別学習

- デジタル教材を活用し、一人一人の学習進捗状況を可視化
- 様々な特徴を持った生徒にきめ細やかな対応を行う

文科省はICT活用の例として、「(リーフレット)GIGAスクール構想の実現へ」の中で上図のような事例(①検索サイトを活用した調べ学習②文章作成ソフト、プレゼンソフトの利用③一斉学習の場面で活用④一人一人の学習状況に応じた個別学習)を提示しています。

まずは、③や④からはじめ、少しずつ②や④に移行していくのがやりやすいと思います。現状、④のデジタルリテラシーが導入されていないので、テストやスキルのおまけ、学習リンクなどで代用しなければなりません。以前お伝えした、イマーシブリーダーも特性を持った児童生徒によりきめ細やかな対応を行う一つの手段です。

これを行うためには発達段階に合わせた系統的・段階的な指導が求められます。1年生はまずは画面の起動や終了といった基本的なところから、2年生はカメラ撮影や簡単なタイピング、撮影した写真を用いてプレゼンなど、3～4年生はタイピングの向上、ワードやパワーポイントを利用した成果物の作成など、5～6年生は共同編集や協同作業による成果物の作成や発表など、各学年の発達段階に合わせたICT活用スキルの習得を目指していきましょう。

実際に使ってみることで、良し悪しを体感できると思いますので、様々な教材で取り入れてみて下さい。

○ICT通信で教職員のICTスキルのアップ
・学力向上係が、各学級のICTの取組を発信することで、どのクラスでも取り組もうという意識が高まった。

